

授業科目(ナンバリング)	臨床検査学 (N4E324)			担当教員	高崎 伸也		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
基礎科目(機能形態学・疾病学等)を十分学修したうえで、各種疾患の病因、病態を理解するために、ヒトの生命維持活動の意義とメカニズムを学修し、生体内で起こる各種化学反応について、その生理的意味を理解できるようになる。また、それを基礎として代表的疾患の病態生理・検査値の変動について正しく理解できるようになる。また、自分で考えて意見を述べることを通じて、これらの内容の興味と理解を深める。							②①
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)生体内で起こる化学反応について、その生理的意義を説明することができる。(2)疾患時に生じる異常反応の原因と関連する検査値の異常について説明することができる。				・定期試験	80%	
情報収集、分析力	病態生理や検査値の変動について、講義で聴いた内容を基礎として考え判断し、自分の意見を述べるができる。				・講義中の意見発表の回数および内容	20%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の成績を80%として、筆記試験を行う。基本的な医学用語、下位科目の理解を前提として、各疾患の診断に有効な検査方法や検査値の変化などに関する設問を、五者選択方式で出題する。 ・講義中の質問に回答した回数やその内容について20%を基準として評価を行う。 							
授 業 の 概 要							
<ul style="list-style-type: none"> ・別途配布するプリントに沿って講義を進める。今までに学んだ生体の仕組みや病態について、これらを把握するのに有効な検査方法や結果生じる検査値の変化の修得を主眼として講義を行う。興味や理解を深めるために、双方向型授業や反転授業として、講義中に与えられた複数の質問に対して、回答を行う。その際、意見を述べやすいようにネットワーク環境を利用した匿名で回答できるシステム(イマキク)を利用する。そのため、スマートフォン、タブレット端末やパソコンなどインターネット接続できる機械を持参することが望ましい。状況に応じてZoomおよびポートフォリオを利用する。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。 							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：毎講義の前に配布するプリント。</p> <p>参考書：標準臨床検査医学(第4版：医学書院)，薬学生のための病態検査学(第2版南江堂)，目で見える臨床検査(メジカルビュー社)</p> <p>指定図書：薬学生のための病態検査学(第2版南江堂)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の前提となる「臨床医学概論」「疾病学Ⅰ」「疾病学Ⅱ」の内容を十分に復習しておく。 ・講義中の質問に対して積極的に考え、そのために復習をして、自分なりの意見を述べることに喜びを感じて欲しい。これらを通じて生体の仕組みの巧妙さなどに興味を持つきっかけとして欲しい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	臨床検査の概要・検体の基礎	臨床検査を学ぶ意義。検体の採取と保存、抗凝固剤の使い分けについて	検体検査の基礎の内容を復習しておく。	581, 582
2	一般的臨床検査	尿検査、糞便検査、穿刺液検査、喀痰	一般的臨床検査の内容を復習しておく。	581, 582
3	血球検査	血算、赤血球・白血球・血小板の異常	血球検査の内容を復習しておく。	582, 583
4	凝固線溶系因子	凝固系スクリーニング、線溶系の仕組み	凝固線溶系因子の内容を復習しておく。	582
5	生化学検査（1）	ホルモン検査（下垂体、甲状腺、副腎など）の臨床的意義	生化学検査（1）の内容を復習しておく。	429, 583
6	生化学検査（2）	血糖、蛋白、脂質の測定と疾患	生化学検査（2）の内容を復習しておく。	433, 583
7	生化学検査（3）	腫瘍マーカー、酵素、電解質の調節	生化学検査（3）の内容を復習しておく。	583
8	電気生理学的臨床検査の基礎	生体電気現象（静止電位、活動電位、シナプス電位など）の成り立ちとその病態生理学的意義	電気生理学的臨床検査の基礎の内容を復習しておく。	586
9	心電図	重要な心臓検査法である心電図の測定法とその臨床的意義	心電図の内容を復習しておく。	586
10	肺機能	呼吸機能（換気能）の評価法とその臨床的意義	肺機能の内容を復習しておく。	585
11	免疫学検査	アレルギー検査、移植免疫、自己抗体の異常と疾患	免疫学検査の内容を復習しておく。	584
12	輸血検査	輸血に際して行われる検査、移植医療	輸血検査の内容を復習しておく。	582
13	脳波・筋電図およびその他	脳波・筋電図の測定法とその臨床的意義	脳波・筋電図の内容を復習しておく。	425, 428, 586, 602
14	腎機能	腎臓の機能評価法とその臨床的意義	腎機能の内容を復習しておく。	581, 586
15	微生物学検査	検体の採取、細菌検査の方法	微生物学検査の内容を復習しておく。	587
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、大学 HP 掲載のコアカリ SBO 番号/項目対応表を参照して下さい。